公益財団法人
イオンワンパーセントクラブ

高校生によるエコ活動コンテスト

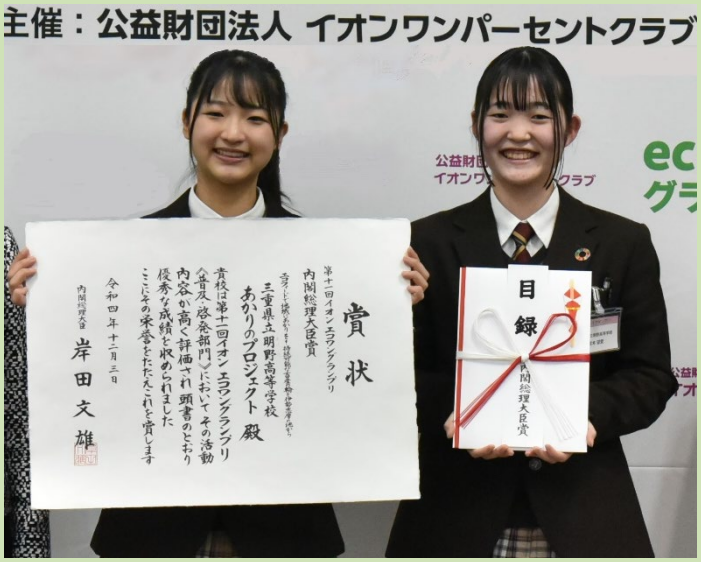
# 第11回 イオン eco-1グランプリ 受賞校が決定！

## 明るい未来を自分たちの手で

公益財団法人イオンワンパーセントクラブは、イオンエコワングランプリ最終審査会にて決定された内閣総理大臣賞ほか各賞の授賞式を、2022年12月3日(土)、開催しました。
イオンエコワングランプリは、地球の未来を担う若者たちが環境問題について考え、行動するきっかけとして、高校生に日ごろ取り組んでいる環境活動の成果を発表していただくプログラムです。全国の高校生が審査会で発表し、他校の発表を聞くことで、表現力や発信力が向上することを目指し、2012年より開催しています。皆さんのご応募をお待ちしています。

### 【普及啓発】内閣総理大臣賞　三重県立明野高等学校

さまざまな素晴らしい発表がある中で私たちを選んでいただき、ありがとうございました。先輩から引き継いできた研究を自分の人生のように取り組んできました。このような形で賞を頂けてうれしい気持ちでいっぱいです。畜産業を持続可能で、魅力あふれるものにして、エコフィードというものをもっと多くの方に、知ってもらえるように、後輩たちにもこの活動を継続してもらいたいです。




### 【研究専門】内閣総理大臣賞　愛媛大学附属高等学校

海洋マイクロプラスチック汚染の解決に向け、先輩たちが発展させてきたこの研究は、私たちの誇りとなっています。その研究に対して、このような素晴らしい賞をいただきとても光栄です。環境問題の解決は単純ではないのでこれからもたくさんの研究が必要になると考えています。日常生活で使われている回収が困難なプラスチックが環境にやさしい素材となるよう、これからも研究に励んでいきます。

# 第11回 イオン eco-1グランプリ 受賞校　発表概要

## 内閣総理大臣賞 ＜普及・啓発部門＞

**■三重県立明野高等学校　あかりのプロジェクト（三重県）**

エコフィードで地域にあかりを！
持続可能な畜産モデルの普及活動

### 評価概要

豚の飼料の元となる穀物の多くは輸入に頼り、干ばつによる生産量の減少や輸送費の上昇による飼料価格の高騰が養豚農家を苦しめている。一方食品産業では、食品廃棄物量が問題となっていることから、地域で飼料に利用できるモルト粕などを食品循環資源として収集し、持続可能な飼料を製造。輸送にかかる温室効果ガスの削減や飼料費削減に成功し、県内初となるエコフィード認証を取得。この飼料を給餌した豚肉は、うまみ成分の一種であるオレイン酸の含量やロース芯の面積が増加し、志摩市の養豚場でも実用。おいしいお肉が食べられる世界を目指し活動を継続している。

## 文部科学大臣賞 ＜普及・啓発部門＞

**■佐賀県立伊万里実業高等学校　フードプロジェクト部（佐賀県）**

ＩＭＡＲＩ　ＦＯＯＤ　ＰＲＯＪＥＣＴ
～地域で取り組むＳＤＧｓモデルの構築～

### 評価概要

地域のＮＰＯ法人や関連福祉施設との連携の他、伊万里市の協力を仰ぎ、昨年５月に地域で初となるフードバンクシステムをスタート。また地元の加工食品製造業者との協働により、アジの中骨を活用したおさかなビスケットを開発した。リーフレットを作成し、ビスケットを家庭にある道具で簡単につくれるように工夫をすることで、事業と家庭の双方での食品ロス削減に努めた。このほか、規格外農産物を活用し、開発した商品がふるさと納税返礼品にも採用されるなど、地域の産学官民が連携する持続可能な食品サイクルシステムでの構築を果たした。

## イオンワンパーセントクラブ賞 ＜普及・啓発部門＞

**■香川県立三本松高等学校　三高みんなの食堂プロジェクト（香川県）**

“できるときにできることから自分たちの手で”
～学食からエコなまちへ～

### 評価概要

「できる時にできることから自分たちの手で」をコンセプトに、学校全体で自分たちの校内食堂を活性化し、エコなまちづくりへつなげていく活動を実施。校内の余った土地を開拓し、つくった野菜を食堂の食材として活用している。また、地元の規格外の野菜や魚を美味しく食べるためのメニューの考案や、地域産業の廃棄物となる革の端材や使われていない食器の活用にも取り組んでいる。さらに。高齢者にも食事を提供したり、スープやお菓子を地元イベントで販売したりすることで、地域のつながりを深めている。

## 内閣総理大臣賞 ＜研究・専門部門＞

**■愛媛大学附属高等学校 理科部プラガールズ（愛媛県）**

**海洋マイクロプラスチック汚染の実態調査と解決に向けての活動**

### 評価概要

２０５０年には海のプラごみが海の生物を越えると言われている事から、マイクロプラスチック端材の構成比実態調査とその対策としての生分解性プラスチックの開発、普及・啓発活動に取り組んだ。市販の天日塩から海洋性細菌を培養しその菌体連から、ポリヒドロキシ酪酸（ＰＨＢ）を抽出。ＰＨＢでプラスチックシートを作成し、海洋生分解性を確認。さらに砂糖と醤油を用いる培養によって生分解性プラスチックＰＨＢ製造のコストダウンに成功。メディアや国際会議を通じて、研究成果の情報発信と啓発活動に取り組んでいる。

## 環境大臣賞 ＜研究・専門部門＞

**■青森県立名久井農業高等学校 ＦＬＯＲＡ ＨＵＮＴＥＲＳ（青森県）**

**乾燥地の塩害抑制研究と沖縄の赤土流出抑制活動**

### 評価概要

小石の層で漏水を防ぐ古墳の技術の「キャピラリーバリア」をヒントに、礫（れき）、藁（わら）、石灰資材を材料とした塩害抑制システムを開発し、レタスの栽培試験で効果も実証した。一方沖縄県では赤土が流出し、海に悪影響を及ぼしていることから、試行錯誤を重ね、水中で崩壊しない赤土の固化に成功した。更にニガリを添加し、耐久性のある三和土を開発した。

## 審査員特別賞 ＜研究・専門部門＞

**■長崎県立諫早農業高等学校　食品科学部（長崎県）**

**「放置竹林の問題解決法 ～新しい子実体栽培方法と普及～ 」**

### 評価概要

現在竹は生活様式の変化や輸入タケノコの増加などによりその利用が激減し、侵入竹林を含めると全国の竹林面積は、長崎県の面積に相当する。そこで竹をパウダーにし、キノコの菌床栽培に利用することで放置竹林問題の解決につなげた。竹は菌の増殖するスピードを速め、雑菌抑制効果も実証された。採算が取れる経営で実用化するべく取り組んでいる。

## 主催者よりご挨拶

おかげさまで「第 11 回イオン エコワングランプリ」を無事に終えることが出来ました。この事業活動の実施にご尽力いただきました皆さまに、心より御礼申し上げます。
最終審査会に出場された皆さんの発表を見させていただき、いずれの高校のチームも、強い熱意をもってエコ活動に取り組んでおられることが伝わって来ました。また、他の高校の生徒さんたちの発表や、審査員の方々からのコメントから、新たな発想や活動のヒントなどを得られたことと思います。皆さんが感じたり、考えたりしたことを、今後のエコ活動に向けた一つのきっかけとしていただければ、とても嬉しく思います。そして、今、皆さまが感じている地球環境の大切さや、生物多様性の大切さを、是非、生の声でできるだけ多くの方に、伝えていただき、地球環境問題の改善につながることを期待しています。

**公益財団法人イオンワンパーセントクラブ**
**理事長　森　美樹**

## 第11回イオンエコワングランプリ概要

主　　催　：　公益財団法人イオンワンパーセントクラブ
共　　催　：　公益財団法人イオン環境財団、毎日新聞社
後　　援　：　内閣府、文部科学省、環境省
応募資格　：　日本国内の全日制・定時制高等学校、高等専門学校で、授業および学校が承認しているクラブ活動（サークル・部活）
募集部門　：　普及・啓発部門、研究・専門部門
副　　賞　：　内閣総理大臣賞 2部門 活動奨励金 各50万円
文部科学大臣賞 活動奨励金 40万円
環境大臣賞 活動奨励金 40万円
イオンワンパーセントクラブ賞 活動奨励金 30万円
審査員特別賞 活動奨励金 30万円

## 第12回イオンエコワングランプリ募集要項

募集内容　：　高校生が取り組んでいる環境保全活動全般を対象とします。
一次審査は、所定（エコワン HP に掲載）のフォーマットにて募集します。一次審査、二次審査を経て、2023 年12 月には全国大会（最終審査会）を開催する予定です。
募集締切　：　2023 年9月予定
審査発表　：　2023 年 12 月予定

≪イオンエコワングランプリ HP≫ https://www.eco-1-gp.jp/

## イオンワンパーセントクラブについて

イオンワンパーセントクラブは、「平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念を具体的な行動に表すため、イオングループの総意によって1990年に設立されました。 以来、グループ主要企業から、利益の1%の寄付を受け、次代を担う青少年の健全な育成に貢献することを目的に活動しています。

**発行元：公益財団法人イオンワンパーセントクラブ**　　**発行日：2023 年 1 月 5 日**
**【お問合せ先】公益財団法人イオンワンパーセントクラブ　☎043-212-6023　✉1p@aeon.info**